

西泰

勸善訓蒙

前編

下

Y994

J10228

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

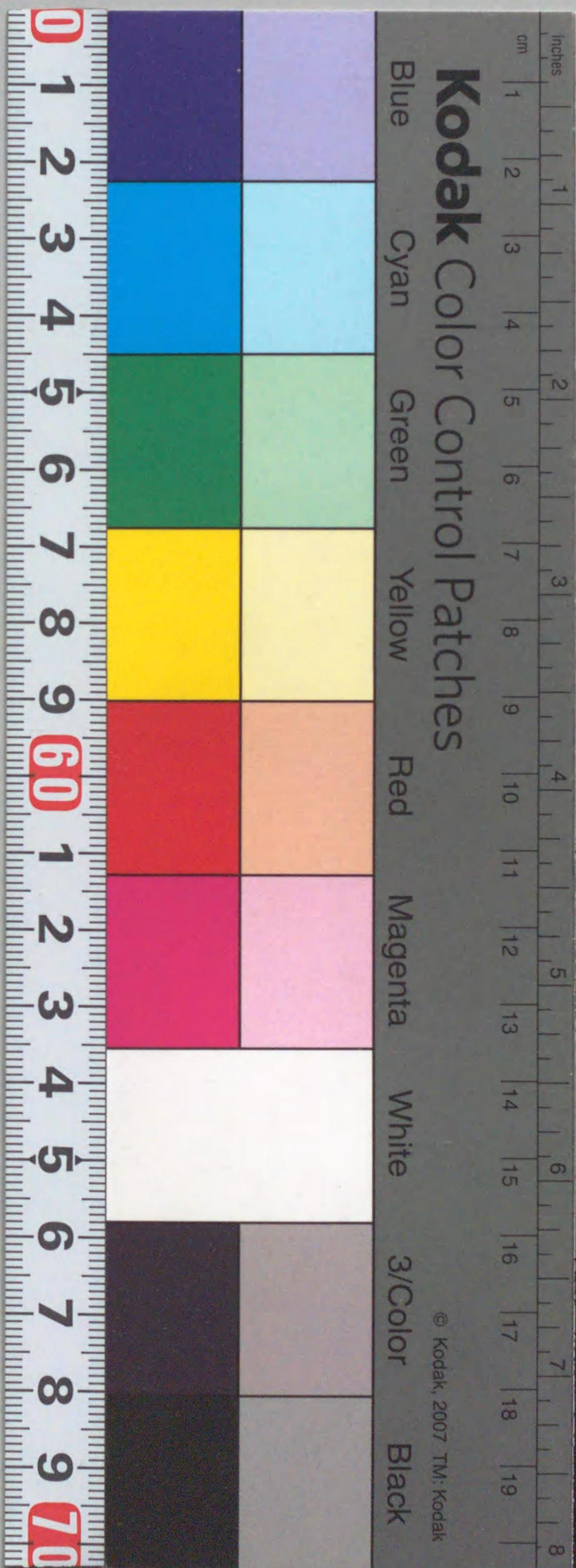


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



明治十二年九月十二日交付

Y994

J10228

敬物

第五篇 博

族人ニ對スル務

第百四十三章

富

人ニ男女アリテ互ニ姻ヲ結ヒ以テ族ヲ為スハ

是レ天ノ命ニ由リテ成ルナリ故ニ族人ニ對スル務ハ

又未申リ命ニ由ルモノニシテ人之ニ昔ク可ラ

又未申リ命ニ由ルモノニシテ人之ニ昔ク可ラ

第百四十四章

西秦勸善訓蒙卷之下

箕作麟祥 譯述

類書博物類

類修身

七

四

第百四章



I種

W



1200901343274

族人ニ對スル務ヲ分テ四種トス曰ク夫婦相互
 ノ務親ノ子ニ對スル務子ノ親ニ對スル務兄弟
 姉妹相互ノ務是レナリニシテ人ニ對スル務ハ
 且夫夫婦相互ノ務ナリトシテ人ニ對スル務ハ
 入ニ對スル務百四十五章賦ニシテ人ニ對スル務ハ
 夫婦ハ互ニ貞實ニシテ相助ケ相親ニ相信スル
 ヲ以テ其務トス

第百四十六章

夫ハ身軀壯剛ニシテ志力強ク見聞博ク知識多
 ク以テ其婦ヲ保護シ且家事ヲ治ムルニ其婦ヲ

佐ク可ク言ハシニ非ス能ク教誨ヲ垂ル警戒ヲ加
 ヘ以テ善ヲ行ハシム可シ

第百四十七章

婦ハ其身軀志力固ヨリ微弱ニシテ其見聞知識
 乏_セ狭隘ナルモノナリ故ニ常ニ夫ノ訓誨ニ信
 從シテ和順ス可シ

親ノ務

第百四十八章

親ハ其子ヲ養育シ且之ヲ教誨シテ其知識志氣
 イ増サシメ其務ヲ説諭シ此世ノ危險ヲ戒告ス

可シ
 第百四十九章
 親ハ其子ヲ已メテノ産業ヲ繼カシム可キノミニ非
 ラス已メテノ徳不徳モ亦其子ニ及ホス可キモノナ
 リ故ニ子ニ貞誠有徳ノ美名ヲ傳ルハ巨萬ノ財
 ヲ傳フルヨリ貴シトス
 第百五十章
 親タル者其子ノ尊敬順從ノ心ヲ得ント欲セハ
 其子ノ良心ヲ害スルコト勿レ又子ノ面前ニテ羞
 慚ス可キ言詞ヲ吐キ或ハ報願ス可キ所業ヲ為

スナクナク殊ニ子ヲ警戒スルニ當リ怒ヲ發スル
 コト勿レ苟モ怒ヲ發スルコトアル時ハ必ズ其尊敬
 ノ心ヲ失フ可シ是審司ノ重囚ヲ吟味スル時敢
 テ怒聲ヲ發シ之ヲ責ムルコトナク嚴肅寛裕ニシ
 テ其罪ヲ問フ可キニ等シ
 凡ソ人ノ順從ノ心ヲ得ントスル者ハ自カラ温
 柔ニシテ耐忍シ且嚴肅ノ氣象ヲ失ハサルヲ以
 テ必要トス
 人猛獸ヲ馴ラスニ溫柔耐忍ニシテ其子ヲ教フ
 ルニ至テハ却テ怒ヲ發スル者アリ是其子ヲ待

泰力善凡...

ツコ虎狼ヲ待ツニ若カサルモノトス
入益 第百五十一章

怒ハ猶一時ノ狂疾ニ等シク怒ニ乘シ行フ事ハ
常ニ道理ニ背キ勸善ノ教ニ戾ルヲ以テ人ノ必
ス慎テ避ク可キモノトス且父ノ其子ヲ譴責ス
ルニ當リ怒ヲ發スルハ殊ニ之ヲ禁ス

第百五十二章

人其幼稚ノ時ハ自カラ踐行不可キノ方ヲ知ラ
ズ只其見聞スル所ニ習ヒ父母ノ習慣ヲ得テ其
常ト為ス故ニ父母ハ平生稚子ニ善ヲ為スノ模
範ヲ示ス可シ若シ稚子ニ惡行アルハ即チ父母
ノ過ナリ

第百五十三章

古羅馬ノ「シセロ」ト云ヘル名儒「シリイ」ノ知府
ウエルレス「カ罪」ヲ答メシ時其人其子ノ面前ニテ

亂行ヲ為シ終ニ子ヲシテ己ノ惡ニ浸染セシメ
シ「トヲ特ニ嚴譴シタリト云フ蓋シ父母ハ如何

ニ丁寧懇切ニ其子ヲ教訓スルト雖モ若シ傍ラ
惡シキ所為ヲ示ス「アル時ハ全ク其益ヲ失フ

可シ

シャロ^レ氏ノ曰ク

辭ヲ盡シテ衆ニ徳ヲ説ク時ハ衆皆徳ニ
 入ラントヲ思ヒ行ヲ以テ人ニ徳ヲ示ス
 時ハ人直ニ徳ニ進ム可シ
 是徳ヲ實際ニ行フハ之ヲ口ニ講スルヨリ其益
 多キヲ云フ
 ボウル^レシャ子^レ氏ノ曰ク
 子ヲ教育スルニ如何ニ訓誨褒賞譴責ヲ
 加フト雖モ父母ノ習慣悪シク其所為正
 カラサル時ハ竟ニ其益ナシ夫レ親ノ威

權ハ子自カラ黙從セサルノ意ヲ起シ親

ノ慈愛ハ子必スシモ感戴セサル事アリ

ト雖モ平常親ノ行フ所ニ至テハ子覺ヘ

ス習フテ以テ規範ト為シ後漸ク成長ス

ルニ及テハ如何ニ之ヲ改メント欲スト

雖モ容易ニ變スル^レ難シ故ニ親タル者

苟モ其子ニ惡習ヲ移ストナク常ニ自カ

ラ善ヲ行ハ、其子必ス之ニ習フテ善道

ニ入ル可シ蓋シ父母其威權ヲ以テ子ニ

善ヲ行ハシメントスル時ハ其子往々偽

善者トナルトアリト雖キ父母ノ善行ヲ
見^{ゼン}テ善習ヲ得タル者ハ必ス真ニ善道ニ
入ル可シ

子ノ務

第百五十四章

權アレハ必ス務アリ務アレハ必ス權アリ故ニ
親ハ子ヲ教育スルノ務アレハ子ハ親ヲ尊敬シ
テ其命ニ従フ可キノ務アリ
父ハ家ノ長ニシテ母ハ其命ヲ奉シ以テ家族ヲ
指揮ス故ニ族人ハ皆其意ニ順フ可クシテ殊ニ

子ナル者ハ父母ノ命ヲ遵行ス則シテ

第百五十五章

孝順トハ遲疑スルコトナク即時ニ父母ノ命ヲ行
フコト云フ

第百五十六章

不順トハ父母ノ禁スル所ヲ為シ又ハ其命スル
所ヲ為セタルコト云フ
不順ノ子ハ多クハ自カラ禍ヲ招ク者トス是レ
父母師傳ノ禁令ハ其子ニ及ハサル所ヲ補助ス
ル為ニ設クルニ因リ若シ之ニ逆フ時ハ唯其父

母師傳ノ心ヲシテ憂ホシムルノミニ非ス常ニ
 已レ不幸ヲ生ス可キカ故ナリ
 不廉ノ第百五十七章
 父母ハ其子ヲ指令スルノ權ヲ有シ且其子ノ為
 ノ有益ニシテ道理ニ合ハタル事ヲ命ズルモノ
 ナリ故ニ子タル者ハ孝順ヲ盡クシテ其教誨ヲ
 守ル可シ

第百五十八章
 父母ハ我ヲ養育シテ且其年終我ヨリ高ク其知
 識我ヨリ優レルニ因リ道理ニ就キ之ヲ論スル

ニ我ヲ指令ス可キノ權アルノミニ非ス國ノ法
 律ニ於テモ子ノ惡行ヲ為シ又ハ親ノ命ニ逆フ
 時ハ父母之ヲ審院ニ訟ヘ暫時其子ヲ禁錮セシ
 メテ之ヲ懲治スルノ權アリ

第百五十九章
 天ハ我ニ性命ヲ授ケ我ヲ守護シテ幸ヲ與フル
 モノナリ故ニ我之ヲ崇敬セサルヲ得ス父母ハ
 我ヲ教ヘ我ヲ養フテ裨益ヲ為スモノナリ故ニ
 我亦之ヲ崇敬セサルヲ得ス

父母ノ天ニ代テ我ヲ指令スルノ權アルハ天道
 上國法トニ於テ之ヲ定メタルニ因リ我之ヲ尊
 敬セサルヲ得ス
 第百六十一章
 人ハ已ニ優レル者ヲ尊敬ス可シ夫レ父母ハ已
 ニ優レル者ナリ故ニ之ヲ尊敬セサルヲ得ス
 父母過アレハ子慎ンテ之ヲ讒譖ス可シ必ス其
 醜ヲ露ハス勿レ
 父母過アルトモ子ハ其意ニ逆フ可ラス

宜シク尊敬ノ意ヲ失フナク
 諫ム可シ

第百六十二章

父母ハ我幼稚ノ時我ヲ愛育シ我カ為メニ辛苦
 勞動セシモノナリ故ニ我最モ其恩ヲ顧ミテ之
 ニ報ウ可シ凡ソ我ニ益ヲ授ケシ者ハ我之ニ報
 ウ可キニ務ムルニ因リ能ク孝順ニシテ辛苦ヲ
 辭セス父母ヲ助ク可キハ是レ我カ免ル可ラサ
 ル務ナリ

父母老衰シテ既ニ勞動スルヲ能ハサルニ至ラ
 ハ我勉勵シテ其恩ニ報イ之ヲ扶助ス可シ
 父母卑賤ニシテ我幸ニ高貴トナルヲ得ルトモ
 父母ノ恩ヲ忘ルハ罪ナク之ヲ尊敬ス可シ若シ
 高位高官ニ昇リ父母ノ恩ヲ忘ルハ時ハ其罪愈
 大ナリトス
 父母ハ其子ノ顯榮ヲ以テ己ノ幸ト為スモ子ナ
 リ故ニ子タル者其恩ヲ忘レテ惡業ヲ行ヒ父母
 ラシテ憂ヘシムルヲ勿レ
 概シラ之ヲ言ハ、我父母ニ事フルハ猶我子ノ

我ニ事フルヲ欲スルカ如クス可シ

第百六十四章

子ノ父母ニ事フ可キ務ハ天ヨリ命シタル所
 シテ人之ニ背ク可ラス故ニ若シ不孝ノ者アレ
 人皆忿罵シテ天ニ逆時國ニ叛ク者トシ之ヲ
 咎ム殊ニ富貴ニシテ其父母ヲ顧ミサル子ハ其
 罪更ニ重シトス
 古希臘ノ「アテナス」國ノ賢士「ソロン」其國ノ法度
 ヲ立テシカ或人其中ニ弑親ノ罪ヲ罰スル箇條
 ノアラサルヲ怪ミ之ヲ問フ「ソロン」答クテ曰ク

人如何ニ兇惡ナリト雖モ敢テ父母ヲ弑スルハ
大逆ヲ為ス至ル者アルマシ我之ヲ思フニ因
リ其罪犯ノ箇條ヲ設ケスト

第百六十五章

人ハ其父母ヲ愛載ス可キノミ非ス又其祖父
母ヲモ愛敬ス可シ蓋シ祖父母高年ニシテ衰病
ニ罹ル時ハ懇切ニ之ヲ看護ス可キト更ニ其父
母ヨリモ厚クス可シ

師傅百對スル務

第百六十六章

師傅ハ父母ニ代テ兒童ヲ訓誨シ善ニ進ムノ道
ヲ教フル者ナリ又我ニ善教善規ヲ授ケ又學術ヲ教ヘテ我
カ資益ヲ為スニ因リ父母ニ等シク之ヲ敬愛シ
之ヲ從順シテ其恩ヲ顧ル可シ

第百六十七章

師ハ謝金ヲ呈スルノミテ以テ既ニ其恩ヲ報イ
タリト思フ可ラズ凡ソ師ノ弟子ヲ教導スル勞
ハ飲食衣服以類々彼此相換ヘ賣買ス可キカ如
キニ非ス蓋シ謝金ハ唯師ノ時月ヲ費ハタルニ

報ウルハシニシテ我畢生明報資益下ス可キ學
 業ヲ教ヘ我知識ヲ弘メ必ク大恩ハ尚未以報
 イサルナリ故ニ亦其大恩ヲ顧ミサル可ラヌ
 古昔師傅ニ謝金ヲ呈スルノミヲ以テ全ク其恩
 ニ報イタリト思ヘル子弟ハ之ヲ忘恩者ナリト
 テ賤メタリ其恩ヲ報フニ及バズ
 兄弟相互ノ務ニ及バズ
 弟百六十八章 又學問ノ務ハ
 兄弟ハ其根ヲ同ウスルモノナリ故ニ互ニ友悌
 ナル可キノ務アリ

兄弟ハ生レ同シ家屋ニ居リ死シテ同シ墓地
 ニ葬ル可キモノナリ故ニ互ニ親和セザル可ラ
 ス
 兄弟ハ猶ホ手指ノ如ク永ク離斷ス可ラス
 弟百六十九章

互ニ友悌ニシテ相保護スルハ兄弟ノ最重ナル
 務ニシテ其他ノ務ハ此ニ簡ノ大務ヨリ生スル
 所ナリ
 又兄弟ハ互ニ勸戒シテ善行ヲ規範ヲ示シ以テ
 善ニ進ムノ方ヲ相勉ム可シ

兄ハ年長ニシテ弟ニ優レルニ因リ能ク弟ヲ教訓シテ之ヲ保護ス可ク苟モ惡道ニ誘引スルヲ勿レ若シ弟ノ惡ヲ為サントスル時ハ兄ハ善行ニ規模ヲ示シ以テ之ヲ制ス可ク弟ハ父母ノ在ラザル時殊ニ兄ニ信從シテ倚賴ス可シ

第一百七十章

凡ソ人我ニ害ヲ加ヘシ時ハ我其罪ヲ宥シ我若シ人ニ害ヲ加ヘタル時ハ悔悟シテ其罪ヲ謝ス可キト是天道ニ合フモノニシテ兄弟ノ間ニハ

就坤艮教ヲ守ル可シ若シ兄弟ノ間ニ爭論ノ起ル時ハ速ニ之ヲ裁斷スル者ヲ立テ其争ヲ和ス可シ若シ之ヲ為サズレハ死シテ猶恨ヲ懷クニ至ルヲ恐ラズ

第一百七十一章

兄弟ハ過失アリトモ互ニ慎シテ之ヲ隱諱ス可シ兄弟ハ一家族ヲ為シ互ニ親睦ス可シ我カ兄弟ニ不善アル時ハ人亦我ヲ其責ニ任シ我カ兄弟ニ徳アルハ人亦我ヲ稱譽ス可シ故ニ

兄弟ノ惡ヲ露ハサバル亦是亦我ノ益ナリ故
第百七十二章 如ク人ノ徳ニ其ノ利ニ非
人友悌ナルヲ欲セバ己身ノ欲ヲ抑制シテ常ニ
兄弟姉妹ヲ惠愛シ其益ヲ思フテ猶己ノ益ヲ欲
スルニ等シクハ可シ

第百七十三章

古羅馬帝¹ヲ仰慕スル²頃兄弟三人父ノ家産
ヲ平等ニ分チシ者アリシカ其後國內亂ル兄弟
中ノ一人不悌ニシテ産業ヲ失ヒ其時其一人之
ヲ扶助シ且更ニ己ノ産ヲ分チテ其二人ニ與ヘ

タリハ美事トシテ其基³ニシテ
兄弟姉妹トシテ務⁴ニシテ
第百七十四章

兄弟姉妹トシテ間ニ自カラ其務アリ兄弟ハ其
姉妹ヲ保護シ又姉ハ往々母ニ代リテ其弟ヲ照
管スルナリ
兄弟姉妹互ニ親和セサレバ家ヲ齊治スルヲ
得スベリト曰ク

汝ノ姉妹ヲ丁寧ニ接遇シ其溫柔ノ性ヲ
尊重シ其汝ノ心ヲ感化スル事調ス可シ

又姊妹之性質軟弱ニシテ激覺易ニ者
 夫レ其憂痛ヲ慰安シテ常時之ヲ親愛
 外ニシテ不可シ
 兄弟族人相互ノ務
 第百七十五章

總和族人相敬愛ハ可キヲ務ハ其疎遠ナルニ隨
 上猶々薄ト雖其互ニ親愛スルヲ猶兄弟
 等シカル可シ
 叔伯父ト甥ト互ニ行フ可キ務ハ父子ノ務ニ比
 スハ差輕シト雖モ其基ク所ハ猶相等シトス

叔伯父ハ父ノ兄弟ニシテ父ニ代ルヲ得可キ者
 ナリ故ニ往々父ニ代リテ甥ノ照管ヲ為ス可キ
 又甥ハ其叔伯父ノ恩ニ報イ之ヲ敬シ之ニ順フ
 一猶其父ノ如クス可シ
 其他族人ハ皆其祖先ヲ同ウシ共ニ一家ヲ為ス
 モノナリ故ニ互ニ親愛互ニ保護シ其家名ヲ
 損セス之ヲ子孫ニ傳フルヲ以テ其務ト為ス可
 シ
 老輩ニ對スル務

第百七十六章

老者ハ之ヲ尊重ス可シ凡ノ老者ノ能ク其生業
ヲ成就シ多少ノ辛苦ニ堪ヘ能ク族及國家ニ
對スルノ務ヲ行ヒ以テ高年ニ及ヒ其身軀衰弱
シ或ハ氣力耗盡スルニ至ラハ年少子弟之ヲ敬
愛シ且ツ之ヲ慰安シテ適意ニ其一生ヲ終ラシ
ム可キヲ勉ム可シ

第百七十七章

古今常ニ老者ヲ尊重セサル者ハ就中古昔「エ
ズ」トスバ「羅馬」等ノ國ニ於テハ尤モ老者

又敬シ其来ル毎ニ衆人必ス席ヲ譲リ若シ年少
者老者ノ為メニ滯ヲ避ケサル時ハ罪アリトシ
テ之ヲ譴責シタリ

朋友ノ交

第百七十八章

朋友ノ交リハ互ニ親愛シテ相扶持スルニテ
蓋シ此務ヲ行フ可キハ天意ト人情トヨリ出ル
所ナリトス

古シラキトク國王テニ一ス其學士ダモシテ死
 刑ニ處セシトモシ時ダモシハ死ニ就ク前家族
 別ヲ告ク且家事ヲ處置ス可キ為メ期日ヲ定
 猶豫ヲ得テ其家ニ至ラズトモ乞ヘテ其友
 ビチアスト云フ者アリシカ保人トナリテ若シ
 獄ニ歸リ來ラサルトテラハ自カラ代
 テ刑ニ就ク可キヲ獄吏ニ約セリ然ルニダモ
 ハ期日ニ至リ果シテ其言ノ如ク獄ニ歸リ來
 自カラ囚レニ就キテ從容死ニ處セラレシ
 又乞テ國王ヲ不^レ此^レ事ヲ聞キ朋友交誼ノ

厚キニ感シタモシ罪ヲ赦シテ自カラ^レ兩
 士ト交ヲ結ハシテ求メシトシ是朋友交誼ノ
 互ニ厚キ規範ト為ス未足ル可シ

第百八十二章

古ハ唯朋友交誼ノ斯ク深カル可キヲ教ヘシカ
 近世ニ至テハ更ニ其教ヲ改メ獨リ朋友ノ
 非ス亦衆人ヲ惠愛シ人ヲ愛スルコト猶^レ已^レテ愛ス
 ルカ如クナル可シトノ善教ヲ設ケタリ
 第百八十三章
 人其朋友ニ益ヲ為サズ此ニハ正直ノ道ヲ

以是敗之為不可也又朋友ノ助ケヲ得ルハ
 一モ勸善ノ教ニ背キタル事ニ因リ之ハ借ル可
 カラ以是人朋友ノ交ヲ厚クセテトスルハ勸
 善ノ法則ニ違フテ之ヲ為ス可カラズ也因ル
 人朋友ヲ扶助スルハ其務ノ一ナリト雖也其扶
 助ヲ為スニ付キ不正ノ事ヲ行フ可カラズ
 帝臘ノ詩家シモニテ或事ニ付キ一日其友
 下リ然ルニ其事ノ不正ナルニ因リテ又ス
 レス之ヲ肯シセシテ曰ク兄ハ詩家ナリ若

詩家作詩出外ハ人誰カ見テ貴重ヒテ余ハ
 吏ナリ若シ國法ヲ破ラハ人誰カ我ヲ信ヒ

僕婢ノ對スル務并主長ニ對スル務

第百八十四章

僕婢ノ家族ノ一部トモ謂フ可キモノナリ故
 其主長ヲ尊敬シテ其命ニ順從シ以テ之ヲ助
 之ヲ護ス可シ又主長ハ之ヲ報シ僕婢ヲ使役
 ルニ寛裕ニシテ恩惠ヲ施シ其規矩ヲナリテ善
 ヲ教ヘ惡ヲ制シ之ヲ指令スルニ非理ヲ以テス

可方ニ及俸金ヲ與フ此今約ニ違テ可カラズ
主長タル者其僕婢ヲ尊敬ノ心ヲ得シトスル
ニ苟無天^ノ罰^ヲ善道ヲ嘲リ官府ヲ罵ル等事
ヲ為テ可クス概シテ之ヲ言ハ、我々僕婢^ノ侍
^ル猶我々君主^ノ過^セラハトテ欲^マカカ如ク
ス可シ

第百八十五章 僕婢ノ侍
僕婢父母ノ令ヲ傳フル時ハ子弟之ヲ奉承ス可
ク又子弟ハ僕婢ヲ待^ツテ寛^クテ可クシテ若シ
不慮^ニ禍患^ハ惟^ハル^ト大^ニテハ怒^リ其身ノ奴僕ト

ナル高至ル可キヲ忘ルル勿^レト

第百八十六章

信實正直ニ其主長^ノ事^ヲル僕婢ハ官^{ヨリ}之^ヲ
賞^譽ス

往時ヨリ僕婢其主長ノ窮乏ニ陥リ零落セシ者

ヲ扶助シタルニ因リ^メ法國ノ大學館ヨリ褒賞ヲ

與^テシテ數度^{アリ}シカ今此ニ三年前^ニ婢ノ德

行^ヲ賞^シ褒^牌ヲ與^ヘタル事^ヲ記^シ以^テ善^キ

為^ス僕婢ハ國ノ恩賞ヲ受^ク可^キヲ表明ス

「エリザベット」コロテト云ヘル婢^ハ巴黎府ニ

テ「シ」ト「ル」ト云ヘル數千金ヲ貯ヘ頗ル富饒ナ
 ル女主ニ多年ノ間仕ヘタリシカ千八百五十一
 年ニ「シ」シ「ル」ハ意外ノ禍ニ罹リテ全ク其産業
 ヲ失ヒ殆ク盡シ餘資無キニ至リ僕婢ヲ畜フ
 不能ラス因テ皆之ヲ放遣セテ「シ」ト「ル」ニ獨リ「エ
 リ」ガ「ベ」ト「ル」其主家ヲ辭スルト「シ」則「ク」肯「セ」テ「陰」カニ
 僕カノ職業ヲ為シ其不幸ナルモ「シ」窮乏ヲ助ケ
 「シ」テ「シ」謀リ俸金ハ固ヨリ受クル「シ」カク晝夜勤
 勵ニテ其主ニ給仕シ少許ノ暇アリハ自カラ職
 業ヲ為シ錢ヲ得テ以テ其女生ノ生計ヲ助ケク

リ蓋シ此婢其主ノ斯ク窮迫ニ至ルヲ救フト雖
 モ毫モ徳色ヲ帶フル「シ」カク舊ニ依テ其主ニ順
 從シ之ヲ尊敬セシニ因「ル」更ニ衆人ノ感賞ヲ増
 シタリ「シ」カテ「ル」此「シ」カテ「ル」云ヘル婢アリ或ル
 商家ニ仕ヘテ些少ノ俸金ヲ貯ヘ之ヲ其主家ニ
 托シ置キシカ主家不幸ニシテ折本多ク終ニ其
 家産ヲ失ヒ「シ」カテ「ル」ト「ル」カテ「ル」托シタル俸金モ全ク
 之ヲ失フニ至リ然「ル」カテ「ル」ト「ル」ハ毫モ恨悔
 在意ナク主家ノ不幸ヲ憫ム人ノ意切ナリ或ハ他

主君仕へ更ニ利ヲ獲可キコトヲ勸ムル者アレト
 モ敢テ從ハズ俸金ヲ受ケスシテ其老主夫婦ニ
 仕へ自カラ錢ヲ得テ其貧ヲ救ヘリ然ルニ其主
 ハ憂悶ニ堪ヘス幾クナラスシテ死去シ其婦モ
 亦盲者トナリシカカテリシハ愈留意シテ厚
 ク之ヲ扶助シ敢テ倦怠ノ念ナク後其盲主老病
 ニ罹リ憂苦ノ中ニ多年ヲ送り終ニ死去セシカ
 死ニ臨ミカテリトシ日向ク深ク其待養ノ厚キ
 ヲ謝シ死後必ズ其息ヲ忘レサルヲ誓ヒ大ニ悦
 ム色ヲ顯ル其妻ハ泣ク事王ノ徳ヲ感ズ

第六篇 百國ニ對スル務

第百八十七章

國ハ數萬、家族相合シテ成ル者ニシテ上ニ君
 長アリ法律ニ循ヒ之ヲ管理ス
 家ヲ治ムルニ家長アルヲ要スルカ如ク國ヲ治
 ルニ君主ナキ能ハス
 憲章ヲ立定メシ國ニ於テハ士民皆其法令ヲ守
 ル可ク君主ト雖モ之ニ背クヲ得ス

第百八十八章

文明開化ノ國ニ生レタル者ハ政府官廳アリテ

士民ノ性命自主財貨ヲ保護シ貿易ヲ為シテ有
 無ヲ通セシメ百工アリテ須用ノ物ヲ辨セシメ
 兼テ又飾粧ノ物ヲモ得セシメ又貧院アリテ貧
 者ヲ恤シ孤院アリテ孤者ヲ救ヒ學校アリテ衆
 庶ヲ教ヘ其他一ノ備ハラサルモノナク以テ無
 数ノ益ヲ受ク可シ
 此國ニ生ル者ハ此等無限ノ益ヲ受ルカ故左
 ノ務ヲ行ヒ以テ國恩ニ報セサルヲ得ス
 國法及官府ヲ尊敬スル事
 第百八十九章

國民ノ最大ナル務ハ國法ヲ尊シテ百事之ニ倣
 ヒ官府ヲ敬シテ萬件之ヲ助クルニアリ
 第百九十章
 前章ノ道理ニ因リ士民皆其君主及ヒ衙門ヲ崇
 敬シ小吏小雖モ之ヲ尊ム可キノ務ヲ生ス
 士民若シ此務ヲ行ハサル者アル時ハ忽チ嚴罰
 ヲ蒙ル可シ總テ言詞動作ヲ以テ帝王ヨリ田野
 公監吏ニ至ル迄之ヲ辱ス又ハ脅シタル者ハ至
 當ノ刑ニ處セラレ可シ
 第百九十一章 其合ハ

國ノ法令ニ循フハ唯其令スル所ヲ行ヒ其禁スル所ヲ避クルスミヲ以テ足レリトセス法令ノ公正純善ナルニ倚頼シ人ヨリ害ヲ受クルト雖モ私ニ之ヲ報イシトスルコトナキヲ必要トス故人若シ非理ニ我財貨ヲ掠法スルト雖モカク用ヒ強テ私ニ取還サントス可カラス殊ニ人ノ我カ物ヲ奪ヒタル時償トシテ彼人物ヲ私ニ取用ヒ又人ノ我カ物ヲ還サ、ル時償トシテ彼ノ物ヲ私ニ奪フ可カラズ忽テ此等ヲ害ヲ受ケクハ時ハ審院ニ乞フテ其裁断ヲ得可シ

第百九十二章

國ノ法度我意ニ適セス又審院ノ裁断ヲ不正ナリト思フト雖モ我慎シテ其法度ヲ守リ其裁断ニ循フ可シ若シ人々恣ニ己ノ意ニ適セサル法度ヲ犯レ己ノ不正ナリト思フ裁断ニ背ク時ハ國中太亂ニ及ヒ國法官府モ共ニ存スルヲ得サ古賢ツコラテスハ人ノ誣告ニ因リ死刑ニ處セラレ時敢テ其冤ヲ申理セサリシトナリ是其裁断不正ト雖モ國ノ法度ニ背ク惡名ヲ

後世ニ遺サレタルヲ欲スルカ為メナリ

租稅ヲ納ムル事

第百九十三章

士民ハ皆政府ノ守護ニ因リ身財貨ヲ全ウスルヲ益ク受クルモノナリ故ニ其益ニ報ク可キ如ク家産ノ多寡ニ准シ政府ニ租稅ヲ納ム可シ法國ノ大學士モンテスキエールノ曰ク士民已ノ財貨ヲ安穩ニ所有シ之ヲ適意ニ用フル大益ニ報イ其財貨ノ少一部ヲ政府ニ租稅トシテ納ム可シ是政府ノ歲

入タリ

前文所記スル如ク士民ハ皆官府ノ守護ヲ受ケ安穩ニ人ト交リ開化文明ノ諸益ヲ得ルモノナリ故ニ之ニ報イテ租稅ヲ納ムルコト當然ナリト

第百九十四章

兵無ケレハ國人ヲ護シテ外寇ヲ防ク能ハス吏無ケレハ國ヲ治メ法度ヲ行フ能ハス道路無ケレハ國中ノ往來ヲ便ナラシムル能ハス溝渠無ケレハ舟楫ノ利ヲ通スル能ハス學校無ケ

レハ見童ヲ教フル能ハス然ルニ若シ士民租稅
ヲ政府ニ納メサレハ何ヲ以テカ官ヨリレテ此
等要用ノ諸件ヲ設クルヲ得ンヤ是則租稅ヲ納
ムルハ各士民ノ務タル所以ナリ

第百九十五章

法國ニテ諸ノ契約書ヲ真正ノモノトナシ又ハ
子弟父母ノ遺物ヲ相續スル時之ヲ官署ノ簿冊
ニ登記スルニ付キ官ニ納ム可キ金ハ是亦租稅
ノ一部ニシテ苟モ詐欺ヲ述ヘ之ヲ免レシト欲
スル者ハ其罰ヲ受ク

法律ハ至嚴至密ニシテ一定不變ノモノナリ故
今士民ハ遲疑大外之ニ循テ可ク必ス毫モ詐偽
ヲ為ス可テ租稅ニ忠ニ盡スルニ志スルハ其志

第百九十六章

國益ノ為相出外ヲ得サレ時ニ往々我所有ノ財
産ヲ官ニ取ムルヲアリ然レトモ其時ハ必ス官
ヨリ至當ノ償ヲ受ク然レモ其科命ニ據ク下
兵後田報國志ニ受ク下ノコトハ其志ニ
人ニ第百九十七章
古ノ高名ナク學士ヲトノ曰ク人因此世ニ主

人、獨リ已ノ為メ人ミニ非ス亦國人為メ族
 人、為メ朋友ヲ為メ衆庶ノ為メ生レタルモ
 一シテ就中國國家モ愛ス可キモノナリ故ニ止
 ムヲ得セル時々國人為メ其性命ヲ擲ツ可シ
 考セ直ニ曰ク、
 我財貨我性命ハ我ニ属スルモノナリ
 其實ハ皆我國ニ属スルモノナリ
 故ニ士民ハ皆國ニ忠ヲ盡クシ泰平ノ日ハ其法
 令ヲ守リテ之ヲ修整シ外寇アル時ハ死ヲ怖
 ズ之ヲ防護ス可シ

家族集合シテ國ヲ為スニ因リ士民已ノ家族ヲ
 防護セシトスルハ必ス其國ヲ防守ス可シ
 國ノ為メ忠義ヲ盡クサントスルハ銳氣ナキ能
 ハス又克己ノ心ナキ能ハサルモノナリ故ニ勇
 ヲ奮テ國ノ為メ防戦シ又ハ國人為メ戦死シタ
 ル士卒ハ皆其報賞ヲ受ケ國人之ヲ貴ミ其名ヲ
 史乘ニ記シテ後世ニ傳フ
 第百九十八章非戰ノ事ハ高ク不備ナリ
 已ニ克チ國ノ為メニ我財産我性命ヲ擲タシト
 スル心ヲ名クテ報國志ト云フ

人其國ヲ愛敬スル猶其父母ヲ愛敬スルカ如ク
ス可シ若シ國ニ於テ非理ノ事ヲ為スト雖モ我
之ヲ怒ミテ其害ヲ為ス可カラズ
古ノ識者曰ク國ノ怒ヲ猶父ノ怒ヲ如ク決シテ
之ニ逆フコトク順從耐忍以テ其怒ヲ慰ス可シ
若シ國ノ怒ニ觸レバ罪ヲ謝セス害ヲ國ニ加
ヘントスル者ハ大罪人トス
法國ノ法律ニ官許ナクシテ外國ニ仕ヘシ者ハ
法國人タルノ權ヲ失ヒ已因國ニ敵シテ戦ス者

ハ死刑ニ處シテ之ヲ罰スル事ハ國益ニ為ル
羅馬ノ名將ヨリテテニスルハ數度國ノ敵ヲ敗ル
大功ヲ顯ハセシカ惜哉其國ヲ怒リ去リ國ノ敵
ニ與テセシ故半生ノ名譽ヲ一時ニ失フメリ
古法蘭西ノ將テルボシハ其初メ國ノ為メニ大
功ヲ成シガ後國ニ對シテ不平ヲ懷キ敵ノ謀計
ニ加リ終ニ反逆人トナリテ全ク其名ヲ墮シタ
リ姑ク曰ク其ハ公器ハ誤ルハ誤ルニシテ其
誤ル者第ニ百章林管ヲ觀スルニ國益ニ為ル
士民ハ兵トナリテ國ニ仕フ可キ人ニ非ス國

七為、學業大教ヲ受ケ數多ク利益ヲ蒙ルル可
思ニ報シ其知識材智ヲ竭シテ國ニ益ヲナス可
ク故ニ己ノ任ヲ受ケシ公務ハ勉メテ之ニ從事
シ常ニ公ケテ入益ヲ先トシ私ノ益ヲ後トシ其
職ヲ行フ可ク國ニ益ヲ多ク與ヘテ其
古者節第二百一章 夫農夫商估工丁ハ國ヲ裨益スル
人ニ其身位ノ尊卑ヲ問ハス己ノ國ヲ裨益スル
人ノ志ヲ可カラズ夫農夫商估工丁ハ國ノ物產
ヲ増シテ國益ヲ為シ學士識者ハ衆庶ノ智心ヲ
啓キテ國益ヲ為ス下猶兵士官吏ノ國益ヲ為ス

異ナラス 其志

瞻志

第二百二章

士卒ノ戰場ニ於テ死ヲ懼レズ奮戦スル者ノ入
獨リ勇トセズ醫士ノ傳染病ヲ懼レズ病者ヲ治
療シ官吏ノ脅迫ヲ懼レズ其職ヲ行フ者皆之ニ
勇ナリトス蓋シ此ノ如キ勇ナル者ヲ稱シ胆志
有ル者トス 夫勇ナル者ハ其志ニ
貧賤ノ者其窮乏不幸ニ屈セズ難事ヲ推排シ
己ノ務ヲ行フハ是亦胆志ナル者トス

已ハ死ヲ懼レズ人ノ性命ヲ救フ者ハ戰場ニ於
 テ勇ヲ奮ヒシ者ニ均シク勇アリトスル也
 法國學士クワザンノ曰ク政治ニ於テ官吏ハ胆
 志アリ戰場ニ於テ將士奮戦ス勇ナル者如ク平
 時人ノ交ニ於テモ亦誠實正直ノ勇テ
 第 二百三章 勳勳
 士民ノ國ニ對スル務ヲ概言スル時ハ其務ハ大
 旨趣タルモ石ニアリ一ハ國法ト官府トニ順從
 スル事又一ハ國ニ報イ其益ヲナス為メ己ノ身
 命ヲ顧リル事是ナリ

士民自由ノ權 所有ノ權

第 二百四章

士民ノ國ニ報ウル務ヲ換ヘ國法ニテ士民ニ左
 ノ權利ヲ授ク曰ク
 身體自由ノ權
 本身自由ノ權
 意思自由ノ權
 出版自由ノ權
 言詞自由ノ權
 物件自由ノ權

是ナリ又其他士民邑會ノ議員トナリ或ハ州會
ノ議員トナルノ權又ハ其議員ヲ撰ムノ權アリ

第二百五五章

人惡ヲ為サス又他人ノ權利ヲ害セサレハ其欲
スル所ヲ行ヒ其好ム所ヲ為スヲ名ケ士民自由
ノ權ト云フ
人其自由ノ權ヲ行フニ他人ノ自由ノ權ヲ妨ク
ルコ勿レ喻ヘハ今學校ノ生徒皆自由主義ヲ發
シ自由ニ令ヲ下シ其自由ニ任セ校令一從ハサ
レハ學校ノ規則忽チ紊亂シテ互ニ相喧噪シ甲

者言ヲ發スル時ハ乙者亦說ヲ講シ竟ニ教ニ就
ク一能ハス故ニ之ヲ防ク可キ為メ甲者言ヲ發
スル時ハ乙者黙シテ之ヲ聴キ丙者事ヲ為ス時
ハ丁者慎テ之ヲ見テ互ニ其自由ノ害ヲ生セザ
ルカ如ク士民自由ノ權ヲ行フモ亦之ニ異ナラ
ス一人ノ自由ヲシテ他人ノ自由ヲ害スルコトナ
カラシム可シ
故ニ若シ盜賊及ヒ其他惡業ヲ行フ者ヲシテ自
由ノ權ヲ行ハシムル時ハ必ス衆庶自由ノ權ヲ
害スルニ因リ此等ノ者ハ官ヨリ獄ニ繫キ其自

由ノ權ヲ奪ヒ以テ之ヲ懲治ス

第二百六章

意思ハ他人ヨリ料知ス可カラサルハナリ故
ニ官ヨリ強テ之ヲ限制スルヲ能ハス是意思自
由ノ權アル所以ナリ又出扱自由ノ權言詞自由
ノ權ハ他人ノ自由ノ權ヲ害セサル時官ヨリ之
ヲ禁制ス可カラス

第二百七章

物件所有ノ權トハ國ノ禁令ヲ犯サレハ已ノ
物件ヲ自由ニ取扱ヒ自由ニ取用スルノ權ヲ云

ノ限ヨリ強テ之ヲ懲治ス

人ニ自由ノ權アルハ又所有ノ權アル可ク蓋シ

父母ノ遺物トシテ受テタル物件又ハ己ノ^{ハタラキ}勞動

ニ因リ得タル物件ハ自由ニ之ヲ取用ヒ自由ニ

之ヲ取扱フ可キニ因リ必ス其人ノ所有タル可

キノ道理アリトス

故ニ官威國カテ以テ各人ノ財産ヲ護シ其所有

ノ權ヲ保タシム自由ノ意思ハ自由ニ之ヲ取用

土地、財本、勞動ノ三者ハ人其財産ヲ得ルノ基源

モトテハタラキ

凡此三者ヲ基源トシテ物件ヲ已リ所者所
為シタル時ハ官威ト雖モ妄ニ其權ヲ奪フコト能
ハズ是猶身軀ノ自由ト意思ノ自由トヲ害スル
所能ハ刑罰カ如シテ各人ノ損益ニ對シテ其
土地財本ヲ有セサル者ハ勞動ト材智トニ因リ
以テ富ヲ致スコトヲ得可シテ其人ハ其富也
一國則第二章ハ自由ニ之ヲ用用コト自由ニ
纔カノ財本ハ乏ラ聚蓄スルハ難キニ非ス士民
其日且得ル或ノ金ヲ無益消費スナク約テ守
リ用ヲ節シテ些少ト雖モ之ヲ貯ヘ數年ヲ經ル

時ハ自カラ一ノ財本ヲ為シ以テ製造貿易ノ用
ニ充テ又ハ意外ノ禍災ヲ支クルノ資助トナス
可シ

第二百十一章

節約ト勞動トハ人ニ満足ヲ得セシメ又往々富
饒ヲ得金シタルノ源ナリ浪費ト遊惰トハ巨萬
ノ富ヲ有スル者モ頓ニ窮乏ニ至フシタルノ源
ナリ

人其職分ニ付テテ道令則外ニ國ニ其此

第二百十二章

前ニ記セシ所ノ務ニ皆人民ノ為サル可カラサ
 ルモ人ニ離レテ士民各其職分身位ニ因リ其他尚
 為ス可キ所アリ蓋シ勸善ノ道ハ固ヨリ唯一ニ
 シテ人ニ因リ位ニ因リ變更ス可キモ此ニ非ズ
 故ニ職分ニ付テス道トハ勸善ノ大道ヲ各其職
 分ニ應シ用フ可キモ云々ナリト又封

第二百十三章

人ノ職分ノ種類ハ故舉スルニ違アラスシテ其
 職分ニ應スル各務ハ之ヲ開載スルト固ヨリ難
 シ依テ今此ニ其世本ヲ舉クハ

官吏學士ノ如キハ人ニ善ヲ教ヘ人ノ惡ヲ懲ス
 ヲ以テ其職分ト為ス者ナリ故ニ他人ニ比スレ
 バ更ニ不拔ノ志ヲ固クシテ善ニ從ヒ些少ノ
 過ト雖モ之ヲ行ハカハ是其職分ニ付テハ道
 ナリハ會大ハ其ハ一ハ官ハ吏ハ學ハ士ハ其ハ職ハ分ハニハ付テハハ道ハ
 故ニ官吏其職ヲ行フニ過アル時ハ平民罰ヲ受
 ケ世ル輕罪ト雖モ必ス其罰ヲ受ク可シ譬ハ
 人其秘事ヲ漏洩スルハ過ハ平民之ヲ為人時法
 ニ於テ罰ヲ受クル事ナレト雖モ官吏國ノ密事
 ヲ洩シ狀師訴訟者ノ秘事ヲ洩ス時ハ法ニ於テ

讀書ヲ為ス可キ智ナキ者ナリ又躰ハ柔弱ナ
 ル者ニハ識博ヲ識ヲ備フ可キ智ナル者ナリ
 第百十六章 職業ヲ行フテ其意ヲ遂ク畢生間ハ幸福ヲ
 受用セント欲スルニハコノ家産已ノ智力已ノ
 嗜好ニ最モ適シタル職業ヲ擇ム可キボロ外
 日夕勤勞費銀ノ限ハ天賜ノ業ヲ入籍ス
 汝詩文ノオナクシテ詩家文人タラント
 欲スル勿レ造營製作ノ能スルニ宜ク
 富貴ヲ得ル可キト云々ハ非ハ其質

第百十七章

貧富貴賤ハ別ハ國ヲシテ和平ナラザルハ
 具テ之ヲ大患ノ一大リト考フ可シ若シ人
 其別大カラシムル時ハ誰カ敢テ此世ヲ
 開化ノ域ニ進マシムル有益ノ職業ヲ為ス者
 德ニ進ムノ法○「フ」ラ「ン」ク「リ」ノ「教」誨

第百十八章

米利堅ノ「フ」テ「ン」ク「リ」ト云ヘル人ハ電氣及ヒ
 避雷柱等ノ大發明ヲ為シタル學士ニシテ初メ

其記簿ヲ此簿冊ニ附シ日ニ其記簿ノ數
 ノ減スルヲ以テ樂ミトス若シ漸ク遂ニ
 德ニ進ミ數百日ヲ經ルノ後此簿冊ノ白
 紙ノミトナルヲ得ハ我悦又殊ニ大ナ
 ラント
 今ノ世ニアル少年輩モ「アラクリ」とノ規模ヲ
 慕ヒ所謂十二ノ徳ヲ心ニ銘シ日々勉勵レテ之
 ヲ行フ時ハ終ニ徳ノ習ヲ得ルニ至ル可レ因テ
 十二ノ徳ヲ左ニ記列ス

- 第一 節制人ヲ釋シテ曰ク昏迷スルニ至ル迄飽饒スルヲ勿レ
- 第二 沈黙人ヲ釋シテ曰ク己ニ益アリ又ハ人ニ益アル事ニ非レハ言フヲ勿レ
- 第三 順序ヲ釋シテ曰ク事物ニ皆次第ヲ定メ事ヲ行フニ各順序ヲ以テス可シ
- 第四 確志人ヲ釋シテ曰ク己ノ為ス可キ事ハ必ス之ヲ為スヲ決シ一旦決シタル所ハ必ス之ヲ遂ク可シ
- 第五 節儉人ヲ釋シテ曰ク己ノ為メ入ノ

為ノ財ヲ有益ノ事ノミニ用ヒ必ス之ヲ無益ニ費ス勿レ

第六 勤勞 釋シテ曰ク光陰ヲ無益ニ過スナク常ニ必ス有益ノ事ヲ勉ム可シ

第七 誠實 釋シテ曰ク人ヲ欺クナク意志言詞共ニ誠ヲ以テス可シ

第八 公義 釋シテ曰ク人ニ損害ヲ加フルナク人ノ思ハ必ス之ニ報ユ可シ

第九 温和 釋シテ曰ク性情ノ度ニ過クルヲ防キ人ヲ恨ムノ念ヲ制止ス可シ

第一 清潔 釋シテ曰ク衣服身軀家屋ヲ不潔ニス勿レ

第十一 寧靜 釋シテ曰ク小事ヲ以テ輕卒ニ心ヲ動ス勿レ

第十二 謙遜 釋シテ曰ク人ニ對シ驕傲ナルヲ勿レ

